

令和 7 年度 国史跡伊勢国府跡調査指導会議 会議録

日 時：令和 7 年 10 月 17 日（金） 午後 2 時から午後 4 時 晴れ後曇り
場 所：伊勢国府跡（長者屋敷遺跡第 45 次）発掘調査現場及び考古博物館講堂
指導委員：三重大学 名誉教授 小澤 毅氏
独立行政法人 国立文化財機構 京都国立博物館 学芸部
考古室長兼企画室 石田 由紀子氏
京都大学 名誉教授 金田 章裕氏
皇學館大学 名誉教授 渡辺 寛氏（欠席）
事 務 局：文化スポーツ部 宮崎部長
文化財課 大窪課長
文化財 G 西出 G L
発掘調査 G 伊藤 G L、田部、勝田、岡、伊藤、渡辺
オブザーバー：三重県教育委員会 社会教育・文化財保護課 記念物・民俗文化財班
主任 鐸木 厚太氏
三重県埋蔵文化財センター 活用支援課 課長 石井 智大氏
亀山市 市民文化部 文化課 まちなみ文化財グループ
主任主査 亀山 隆氏

以下、会議録

13:50 開会 （司会：発掘調査 GL）

文化財課長挨拶

14:00 現地指導

【現地指導】

事務局：

まず、今年度は昨年度の 44 次調査の真北で調査を実施しております。今回の調査では、令和 5・6 年度に確認された南北溝 2 条（SD408・409）が検出され、途切れず続いていることがわかりました（資料 5）。SD409 に関しては、瓦が大量に出土していたのですが、SD408 の方でも瓦のほかに土師器や須恵器も比較的多めに出土しております。

次に、東西にのびて途中で途切れる溝 SD412 です。若干斜めにもなっているようにも見えるので、後ほどお話を伺いたいと考えています。こちらは昨年度に途切れて確認された SD399 の延長と考えられ、それが斜め方向に走っていると理解しています。資料 5 を見ていただくと、東西方向の中心軸はこの溝の上を走るだろうと計算上では考えられますが、東西方向の中心軸に対して昨年度調査の SD402 の対になるような東西溝は確認できませんでした。また、昨年度土坑と判断していた SX403 も斜め方向に走っており、形的にもちょうど対になるので、再考する必要があると考えております。

ここまですが昨年度に途中まで確認できた遺構ですが、今年度は新たに SD407 という細長く、途中で折れ曲がる溝が確認されました。西に広がる溝に比べるとだいぶ細いですが、サブトレンチを開けた際に瓦が出土したため、国府に関連するものだろうと想定しています。ただし、非常に細いため、区画内部の深い溝の可能性もあり、こちらに関してもご意見をいただきたいと存じます。このトレンチからは瓦が 1 点出土したのみで、それ以外の出土遺物は現在確認されておられません。

もう一つ新たに確認できたのは、西側にある溝 SD410 となります。瓦の出土量が多く、土師器や須恵器も確認されました。ただし、礫も非常に多く、おそらく地山の下の礫層が見えていると考えられ、上の方が削平されている可能性が考えられますが、こちらも国府に関連する溝と考えております。

最後に、南西隅に、昨年度北西隅で確認された SX401 の延長が確認され、改めて SX411 とさせていただきました。基礎地業は見られないと考えており、深さから竪穴建物の可能性が考えられます。昨年度と同様に瓦と土師器、須恵器が出土しました。国府より前の時期のものとして推測しています。

また、竪穴建物 SI413 が確認できました。東側の方に少し出っ張っている箇所があり、焼土が確認されたことからカマドと判断しております。溝 SD410 と重なっておらず、上下関係が確認できませんが、国府の前の時期と推測しています。カマド周辺に大きな瓦が比較的多く残っておりますので、瓦をカマドの構築材として使ったと考えています。19 次調査で似たようなカマドのついた竪穴建物が確認されておりますので、それに類似するものと思っています。途中までサブトレンチを入れて確認したところ、袖は壊れてしまっている可能性が高いと考えています。

また、ピットが複数見られ、掘立柱建物と考えられますが、最低でも南北 2 間分、西に向かって 2 間以上はあると推測しております。時期はわかりませんが、国府よりも少し前と推測しています。こちらにもご意見、ご指導いただきたいと思います。

大きな遺構としては以上ですが、隅に焼土がある遺構 SX414 が 1 か所確認されており、竪穴建物 SI413 のカマドと形状が似ていることから西側に向かって同じような建物が広がっている可能性が考えられます。今回借りている土地の限度上、今年度はこれより西を調査できません。

金田委員：

黒い土の断面と溝跡の断面は少々異なる気がしますが、掘った際に感覚が異なるのでしょうか。

事務局：

前日の雨で掃除が間に合っておらず、現在そう見えており、色や感覚はこちらの溝と同じものと考えております。

石井課長：

これ柱穴ではないんですね。

何となくこの辺り、距離から考えるとこのあたりにほしいですね。

石井課長：

そうすると、柱の掘方から見ても、溝よりも後の掘立柱建物に見えます。

小澤委員：

平安時代の途中から柱穴は小さくなりますから、国府よりは後と考えられます。上から切っているように見えるので、探せばまだ柱穴があるかもしれません。もう少し精査する必要がありますでしょう。溝と重なっているところは、溝を掘り抜いても柱の掘方は残るでしょうから、精査できると思います。南北が 2 間ですから、普通、東西はそれよりも間数が多く、国府より後の時代の可能性が高いと考えられます。平面上で捉えることが最善ですね。

また、竪穴建物に関しては、カマドの構築部材が瓦だとすると、国府の前に瓦があったとみるのはかなり厳しいと思います。国府やその周辺の竪穴建物で、瓦を使った例というのは、関東などを含めて多数ありますが、国府より前の遺構というより、同時期か後の時代のものが多いはずで、この竪穴建物が国府と同時期に機能しているとすれば、瓦は国府で使用したものを使ったのではないのでしょうか。

事務局：

造営キャンプのようなものとして使用されたのではないかという意味で、国府より前の時代のものと言いました。他の調査区ではカマドの構築材として瓦を使っている例があって、今までは国府の瓦を利用しているのではと指摘されていましたが、国府より後の時代と考えた

方がよろしいですか。

小澤委員：

国府に使う瓦が竪穴建物に流用できるような状態であったならば、そう言えるかもしれません。

石井課長：

竪穴建物のサイズはかなり小型で、飛鳥時代には小型のものが多いと思うのですが、奈良時代にはこの規模のものは結構あるのでしょうか。

事務局：

19 次調査で見つかった時の竪穴建物の方が少々大きいです。構造上、竪穴建物と思われませんが、竪穴建物ではなく、カマド屋のような機能を有した遺構ということですか。

鐸木さん：

硬化面はどうですか。

事務局：

貼床は、現状では見つかりません。工房系も一つの可能性として考えましたが、そのような出土遺物はなく、現状からは判断しかねます。

石田委員：

瓦にほとんど二次焼成の痕跡がなく、カマドに使ったというふうに考えなくてもいいのかなと考えられます。国府の造成前に瓦を使っているとする、使えない状態や余っている瓦を使うのは、造営の段階では変ではないかと思います。

小澤委員：

カマドの構築材らしい出方をしていないと考えます。

事務局：

丸瓦の部分が袖の部分の可能性はないかという話をしていました。

小澤委員：

カマドの下に丸瓦を立てて、上に土器を載せる例はあるので、位置的にもおかしくはないでしょう。しかし、構築材とみると矛盾するように感じます。

事務局：

竪穴建物や掘立柱建物が国府に関わるものよりも新しいと理解する場合、9 世紀頃を想定されるわけですか。

小澤委員：

方位としては整合しますね。

事務局：

そうすると、北方官衙の建物などが 9 世紀頃には廃絶していると考える必要があり、今までの想定と異なってくるのではないのでしょうか。これまでに、伊勢国府跡の出土遺物には 9 世紀に入るかどうかくらいまでのものが出ており、それよりも新しい遺物や遺構は一切出ていません。今回の竪穴建物・掘立柱建物の時期次第では国府の廃絶時期に関して再考する必要があります。

石田委員：

瓦をカマドに使ったというのは違和感が出てしましますが、後に入り込んだものとするなら国府より後のものとしても齟齬はないのではないのでしょうか。瓦を観察して二次焼成がなかったり、やわらかい焼きのままであったりすれば、廃絶する際に入り込んだものと解釈できます。古いものとしても、土器などで時代を判断できれば一番良いのでしょうか。

事務局：

土師器・須恵器は現状土師器が 1 点と掃除中に須恵器が 1 点出土したのみで、いずれも欠片です。

小澤委員：

方格街区の成立以降のどの時代に作られたものか、この調査区からだけではわかりませんね。SD410 も瓦が出るのは西寄りですか。

事務局：

そうです。

小澤委員：

瓦を使った施設が西側にあって、そこからの瓦が出土しているというイメージでしょうか。

事務局：

そう考えて、建物に関する遺構があることを想定して調査を行っていましたが、現状では確認できていません。南西隅の SX411 も溝に伴う建物になるかと推定していますが、だいぶ浅く、直下に礫層があるため、建物の可能性は考えにくいのではないかと。

小澤委員：

南もそうですが、土の質は良いので、土取りをするための土坑などはいまだに見られませんでしたか。

事務局：

溝が止まっているようなものは何か所かありますが、直接土取りと判断した遺構はありません。

小澤委員：

SD410 の北と南で深さの差があるように見える部分がありますが、底面にはどれくらいのレベル差がありますか。

事務局：

溝の底の標高は 49.6m と 49.5m です。

小澤委員：

底は水平なのですね。

金田委員：

元はこの地山面の傾斜がもう少し水平だったでしょうから、ほぼ同じ深さで出て、ここで途切れたということでしょう。

小澤委員：

ちょうど南北に二分した時の真ん中辺りで切れており、意味があるのかもしれません。SD408・409 は同時併存とみておられますよね。それでも瓦は SD409 で多出しているうえ、出土したのが埋土の途中ですから、おそらくある段階に西側で使われた瓦がこちらに捨てられたのだろと思われる。溝の中央部辺りに瓦が集中しており、ある程度自然に埋まった段階で西側から捨てられた、と考えられるのでは。

また、軒瓦ではない確実な平瓦がたくさんありますが、やはり本瓦葺の建物ないし施設なのでしょうか。

事務局：

SD409 から小さめの重圈文軒丸瓦が出土しました。

小澤委員：

今回は SD409・410 の間に築地もしくは土塁を想定されていましたよね。築地というのは瓦を葺いたものです。そうすると、なぜ SD409 にのみ瓦が入ってくるのか、説明をつける必要が出てきます。

事務局：

そうですね。サブトレンチからは出土していますが、検出時に出土する瓦の量に差があるので、説明が難しいことになると思います。

小澤委員：

溝と溝の間に必ずしも築地や土塁等の遮蔽物を想定する必要はありませんから。資料 5 の中心軸はどうやって求めていますか。

事務局：

長塚東南区の東西規模が 380 尺であるという想定を前提に、南北大路の東側溝から半分の 190 尺のところで線を引いています。求め方は溝の芯々で行っています。

小澤委員：

かなり推定の部分が大きく、厳密に中心軸の位置を決めきれていないことを理解した上で話されたほうがいいと思います。

事務局：

資料6・7の、42・43次調査の際に、東西道路の北側溝SD389と南側溝SD390が通っており、それに平行して南北両サイドに溝SD388やSD391・393があることから、土塁や築地があると想定されたという話だったと思います。今回検出した溝SD408・409はSD391・393が南に折れた延長であって、ここにも築地ないし土塁があったのではないかと考えられてきました。区画を行き来するための通路自体はつけられなかったというイメージになるのでしょうか。確かに、42次調査のSD383や43次調査のSD388・389は築地などの施設を類推するような堆積が見られず、そのような施設はないのではないかと指摘がありましたが、今回も土塁ではなく通路として想定しても齟齬はないかもしれません。

小澤委員：

SD408はSD397の延長ということですが、番号を変える理由は何ですか？

事務局：

今年度に調査して出てきたので、整理しやすいように順番に番号を振りました。

小澤委員：

同じ遺構であるのが明らかな場合は、過去の調査と同じ番号で通した方がわかりやすいと思います。逆に、SD407など、南北溝と東西溝が鍵の手状に折れるような遺構は、南北溝と東西溝で番号を分けてもいいでしょう。三重県ではどうされていますか。

石井課長：

年度をまたいで同じ遺構が出てきた場合は、基本は前と同じ番号をつけるようにしていますが、別の遺構である可能性が出てきたら分けることはあります。

小澤委員：

溝全体を完掘する必要はありませんが、半分だけ断ち割るなどした方がよいのではないのでしょうか。また、埋土が汚れている部分も残っているので、もう少し下げる必要があると思います。SD408の北側辺りで確認されている柱穴は、掘立柱建物もしくは塀になるのではないのでしょうか。

金田委員：

SD407は細すぎるように思います。しかも、狭いところと広がっていくところがありますよね。その辺りがどういう状態か確認するためにも、端の部分を掘る必要はありませんか。

小澤委員：

SD408は通路の側溝ならばこんなに深く掘る必要はありませんね。

石田委員：

コーナーの部分なので、だんだん浸食されて広がっていったという可能性も考えられます。

小澤委員：

水はけの良い台地上で大きな水路や排水溝は必要になるのでしょうか。やはり瓦をつくる土を取るための溝である可能性はありませんか。

事務局：

そもそも水が溜まるような土質ではなく、排水溝は必要ないと思います。溝は格好として作っていたとは思いますが、土取りということは考えていませんでした。

小澤委員：

仮に土取りのためでなかったとしても、土塁等の土をたくさん使うような施設があったのでしょうか。

事務局：

SD412は土塁だったものを何かに使った可能性があると考えていたのですが、斜めに入っている土坑が上に乗っているように見えたのかと思っていました。ちょうど対称に見えるよ

うな場所に出てきているので、断ち割って確認しましたが、層の重なりとしても別のものには見えませんでした。

金田委員：

SD408 と SD409 の幅が異なることから、溝同士 성격が異なる可能性が考えられますね。

14：53 現地確認指導終了後、考古博物館へ移動

15：30 考古博物館到着後、出土遺物視察

15：35 考古博物館講堂にて再開
文化スポーツ部長挨拶

事務局：

再開にあたり、改めて鈴鹿市情報公開条例第 37 条により公開が原則ですが、傍聴人は 0 人であることを申し上げます。また、議事録は要約記録として後日公開いたします。

15：40 現地指導の内容の総括と確認及び令和 7 年度以降の発掘調査計画の検討

【現地確認・指導の内容の総括】

石井課長：

SD408 と 409 の違いを土層からも検討して、両溝間にあったのが築地なのか通路なのか、精査する必要があると思います。

また、SI413 に関してもその位置づけや国府との関係をしっかりと補足できるような情報を得るための調査する必要があると思います。

金田委員：

SD408 は東南方向に少し張り出しており、SD409 とは元々の機能・役割が異なっていた可能性がありますか。

石田委員：

SD408 と 409 の関係が気になります。どちらもそれほど離れていないのに、SD408 にはほとんど瓦が入らず、SD409 には入るという状況の意味を考える必要があると思います。それによって、両溝の間にあるものが築地か通路かという位置づけに関わると思うので、精査する必要があるでしょう。

小澤委員：

SD408・409 の間に築地があったとすると、この築地は南北にまっすぐ通るということになります。ただし、それに直交すると想定される SD399 と SD402 の間の築地は、SD397 によって途切れてしまいますよね。そういったことがありえるのかが問題になると思います。盛り土があったから瓦の出方に違いが出るという可能性はもちろんありますが、溝のあり方としては通路としての可能性を想定するのも 1 つの見方ではないでしょうか。区画自体はそれほど大きくなく、外周の築地はあり得るとしても、内部をさらに盛り土によって区画する必要があったのか疑問です。過去の調査例を見ても、区画内部をさらに土塁で区画した例はないと思います。

【令和 8 年度以降の発掘調査計画の検討】

事務局：

令和 8 年度の候補地は 2 箇所あり、どちらも地権者とは連絡が取れているが、今後の調整が必要です（資料 8）。

候補地①は、昨年度に検出された東西方向の溝の延長含む内部構造の確認のために行いたい。ただし、木があるため一部分のみの調査になる可能性があります。

候補地②は、今年度よりも少し南西の地点で、1次及び40次調査の西側で建物の痕跡が確認されており、これらが東側にどのように広がるのか確認するのが目的です。調整次第で調査区の設定箇所が変わると思われます。

なお、令和9・10年度の候補地は、借用予定の土地がそれなりに広いため、2か年での実施を予定しています。長塚東南区の北西側の区画の内部構造を確認することが目的となります。

令和11年度以降は、今後の調査の進展に基づいて再考していきますが、さらに北側にある長塚東南区の北西隅の確認を目的とした調査を考えています。

小澤委員：

資料4のSB370の規模を確定するために、北辺を調査する土地の中心にあてるのが効率的ではないですか。北側の方が区画全体の中央に近くなるので、そちらの方に中心的な施設がある可能性が想定されるのではないのでしょうか。

事務局：

土地の境を十分に確認しつつ、借りられる範囲で目いっぱい調査できるようにトレンチを配置しようと思います。

鐸木さん：

候補地①の部分的な調査というのは、トレンチをどこに開ける予定ですか？ 候補地の南側の部分でしょうか？

事務局：

そうなります。現地と地図ではずれていますが、資料5の44次調査で確認されたSD402の延長が確認できていないので、その辺りを重点的に捉えられるように調査しようと考えています。

事務局：

しかし、直径1mくらいの木が沢山生えており、それを切らずに残して調査することになるので、トレンチを真っ直ぐに設定することは難しいかと思います。なるべく全体を把握するため、いくつか分割してトレンチを設定していくことになると考えています。

【その他】

小澤委員：

委員を辞められた和田委員や、体調を崩して欠席されている渡辺委員の後任の予定はありますか？

事務局：

和田委員の後任につきましては何名か候補を挙げさせてもらっており、現在検討させていただいています。来年度には新任の方に来ていただけるように動いています。

渡辺委員に関しましては連絡が取れず、ご本人の意思が確認できておりません。早急に確認するように動いてまいります。

16：08 閉会